

## 北東アジアにおけるエネルギー協力の課題 North-East Asia Subregional Consultation Meetingに参加して

ERINA 調査研究部主任研究員 新井洋史

国連アジア太平洋経済社会委員会 (UN/ESCAP) では、エネルギー分野でのメンバー国の協力強化を図るため、2013年に大臣級の会合を開催することを計画している。「アジア太平洋エネルギーフォーラム (APEF)」という名称で、2013年5月27～30日にウラジオストクで開催されることが決まっている。UN/ESCAPでは、その準備プロセスとして、5つの局地圏ごとにそれぞれの地域の問題を検討する会議を順次開催している。その一つとして、2012年11月12～13日に、韓国インチョン市で、北東アジア地域を対象とした North-East Asia Subregional Consultation Meetingが開催された。筆者はこの会議に招待され、議論に参加する機会を得たので、その概要を紹介したい。

会議には、中国、日本、モンゴル、韓国及びロシアの5か国から約30人が参加した。合計1日半の会議のうち、初日は各国事情及び地域協力の取組等のに関するプレゼンテーションを中心に進められた。翌日の午前中は、会議報告の内容を巡って、意見交換を行い、英文4ページの文書を取りまとめた。

初日の第1セッションは、エネルギー安全保障と持続可能なエネルギー利用を巡る課題と可能性というテーマの下、現状の整理・分析を中心とした報告が行われた。最初に、基調報告的な位置付けで高麗大学のイ・ジェスン教授が報告を行った。イ教授は事務局からの委託を受けて、北東アジアにおけるエネルギー事情及び課題、さらに協力の進展状況について整理を行っており、今回の会議における検討の材料としてその中間報告を行ったものである。地域が抱えるエネルギー関連の課題として、エネルギーへのアクセスの確保、エネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの利用、エネルギー取引の安定、各国のエネルギー関連の補助金の問題及び原子力安全の問題を指摘した。引き続き、各国の政府関係者または政府系シンクタンクの研究者らが各国事情を報告した。

第2セッションでは、地域協力の現状と課題等がテーマとなった。ここでも、イ教授の報告がベースとなった。北東アジア地域には、域外に広がるものも含めて、様々な多国間の協力の枠組みがあることを紹介しつつも、必ずしも有効に機能していない点などを指摘した。そうした協力の

枠組みの一つには、UN/ESCAP自体が進めている「北東アジアエネルギー協力 (ECNEA)」という取組があるのだが、これには中国と日本が参加を保留しており、十分な成果を上げていない。イ教授は、高いレベルでの政治的コミットメントの必要性や、明確なアジェンダ設定の重要性などを指摘した。

第3セッションでは、既存の地域協力の枠組み等の紹介や新たな協力の可能性等についての議論が行われた。このセッションの中で、筆者はERINAが事務局機能を担っている「北東アジア天然ガス・パイプラインフォーラム (NAGPF)」の活動を紹介し、共同研究の成果としての長期的な天然ガスインフラビジョンを提示した。このほか、UNDPが支援している「大図們江イニシアチブ (GTI)」におけるエネルギー分野の協力の紹介などもあった。

以上のように、初日は主にプレゼンテーションを聞き、その内容について確認することを中心とした質疑応答を行った。これに対して、2日目には、事務局が用意した会議報告の素案をベースに活発な意見交換が行われた。

会議報告<sup>1</sup>は、冒頭述べた2013年の大臣会合に向けた北東アジア地域からのメッセージとなるものである。その中では、現状認識として、地域エネルギー協力の潜在力は大きいにも関わらず、それが十分に認識されておらず、実際のエネルギー協力の成果は限定的であるとしている。地域が抱えるエネルギー安全保障やエネルギー効率利用上の課題として、エネルギー資源取引やエネルギー効率などのエネルギー分野に内包される課題のほか、各国の思惑の違いや政治的な制約の存在などにも言及している。これらの分析を踏まえ、実施すべき事柄を12項目提案した。その中には、UN/ESCAPの主導で地域協力を推進する環境や枠組みを作っていくことといった体制整備に関わるものがいくつかある外、資金メカニズムの構築、人材育成や技術移転などといった具体テーマに関わる項目もある。

最後に、議論に参加しながら感じたことを2、3挙げたい。まず、エネルギー資源の売り手であるロシアの立場や考え方が他の国とは異なることである。このことは、もとより構造的に明らかであり、あえて言うまでもないことではあるが、今回も改めて再認識することとなった。基本的

<sup>1</sup> 会議報告は、[http://northeast-sro.unescap.org/meeting/2012/nea\\_energy.html](http://northeast-sro.unescap.org/meeting/2012/nea_energy.html)からダウンロード可能。

には、化石燃料の重要性を決して軽視してはならないというスタンスの発言が多かった。

また、エネルギー効率向上を含む様々なエネルギー関連技術面での協力にも高い関心が示されていることも印象に残った。エネルギー安全保障という言葉からは、エネルギー資源権益をいかに確保するかという地政学的な視点での議論を想起してしまうのであるが、実はエネルギー効率の向上なども大きな意味を持つ。こうした認識が、エネルギー専門家の間ではかなり幅広く共有されているとの印象を強くした。ともすれば「国益」という言葉に惑わされて、愛国主義的な感情論が世論を支配することもあるが、エネルギー安全保障の確保は単なる資源争奪戦ではないという冷

静な議論を専門家以外にも広げていく必要があると思う。

さらに、効果的な国際協力を実現していくことの困難についても、大いに考えさせられた。既存の組織や取組が十分効果を上げていないことを指摘しつつ、「だからUN/ESCAPが主導して、強い政治的意思をもった取組を進めるべきだ」という方向に議論が進むことは、こうした会議を開く以上、当然の帰結であると思う。と同時に、複数の国際協力が並立し、「帯に短し、襷に長し」といった状況にある中で、それがさらに助長されてしまうのではないかという危惧も抱く。北東アジアの多国間協力を唱えるERINAとしても、十分留意すべき点だと思う。自戒しつつ取り組んでいきたい。